

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 22日

事業所名 穂乃花

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		活動内容によって療育スペースを使い分けようとしている	個室の部屋が少ない為、クールダウンが必要な場合はパーテーションを使用し、一人になれる空間を作っている。
	2	職員の配置数は適切である	5			個別対応に必要な児童が多い日でも必要な人員が確保できるように努めていきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		5		賃貸物件の為、全てバリアフリー化することは難しいが、今後も子ども達が安全に過ごせるよう環境作りには配慮していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			子どもたちが過ごしやすく清潔な空間が維持できるよう毎日の清掃やおもちゃの消毒などを実施している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			職員全員で業務の振り返りと活動計画ができるよう、日々ミーティングの時間を設けている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			保護者等評価を参考にしながら今後も業務改善につなげていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ホームページで公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		今後は第三者評価の導入も検討したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			定期的に勉強会や研修を実施しており、今後も継続していきたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			利用開始前には保護者面談等を実施して、ニーズや課題を把握するようにしている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			アセスメントシートを使用しながら、子どもの特性を把握できるようにしている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			個々の課題やニーズに応じて具体的な支援内容を策定できるようチームで検討している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			計画内容について職員で共有しながら支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			毎月、職員全員で活動内容を立案するようにしている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			職員全員で活動案を考えることでプログラムが固定化しないようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			子どもの特性や課題に応じて、個別活動と集団活動を個々に設定している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			活動の開始前までに職員間で打ち合わせを行い、支援内容を確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			支援終了後は職員間で情報共有を実施しており、時間がない場合は翌日に気付いた点を共有するようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			活動の終了後に記録を残し、次回の支援の参考にできるようにしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			会議には児童発達支援管理責任者を中心に本児の課題や状況を把握した職員が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			児童の状況に合わせて必要な関係機関と連携を取りながら支援を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			※対象児なし	※医療的ケアが必要な児童はまだいないが、必要な際は適切に対応できるよう対応していきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			※対象児なし	※医療的ケアが必要な児童はまだいないが、必要な際は適切に対応できるよう対応していきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			児童のニーズや課題に応じて、移行先の関係機関と適宜必要な連携が取れるよう調整している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			児童のニーズや課題に応じて、移行先の関係機関と適宜必要な連携が取れるようにしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		5		近隣の児童発達支援事業所などと連携しながら、支援方法の検討や情報交換などを行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		5		ハロウインのイベントで地域の人達と交流したり、消防署見学などで職員と交流したりしたが、次年度は地域住民との交流をさらに充実させたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5		今後、必要な会議があれば参加できるよう情報収集をしていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			日頃から保護者へ児童の様子や状況などを共有するようにしている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		5		日々の研修を積み重ねながら、支援スキルを身に付けられるようにしていきたい。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			今後も引き続き丁寧に分かりやすい説明を心掛けていきたい。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			個別支援計画の内容等について丁寧に説明し、保護者と意見交換しながら計画を立てるようにしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			保護者からの問いかけに対し、その都度対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			令和5年度はコロナ後、初めての保護者交流会を開催することができた。今後も交流会など楽しいイベントを実施していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			職員間で情報共有を行いながら、出来るだけ迅速な対応を心掛けている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			毎月「ほのかだより」を発行し、活動内容をお知らせしている。その他、連絡が必要な事があれば随時、お知らせするようにしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			研修等を実施しながら、個人情報の取り扱いに配慮するよう対応している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			保護者や子どもたちにわかりやすい説明を心掛けている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		ハロウィンイベントや消防署見学などで地域を訪問する機会は多かったが、次年度は地域の方と交流する機会を増やしていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			今後も毎月の避難訓練を継続しながら、保護者等へマニュアルの周知ができるようにしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			毎月、火災訓練や地震・津波、不審者訓練等を交互に実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			今後も服薬や医療ケアの有無について事前に確認しながら、必要な対応ができるようにしていきたい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			今後もアレルギーの有無について事前に確認し、必要な対応を実施できるようにしたい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			ヒヤリハットに該当する事例が発生した際は職員会議の際に情報共有しており、今後も継続していきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			職員全員で虐待防止研修を実施している。今後も継続的に実施していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			今後も対応方法について職員間で共有しながら、適切な対応が行えるようにしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。